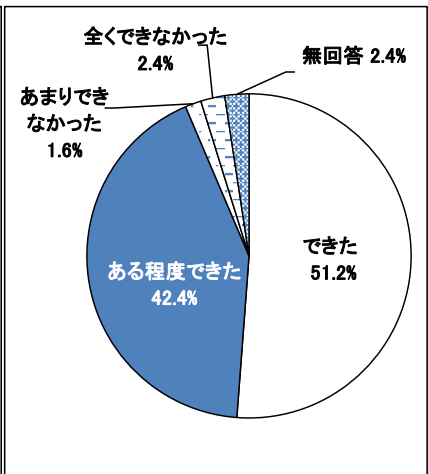
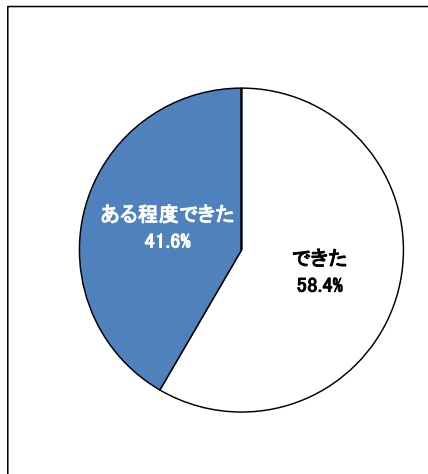
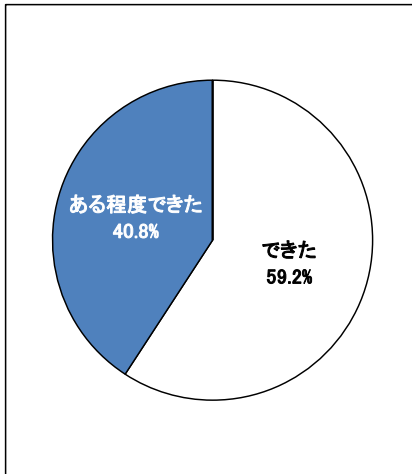


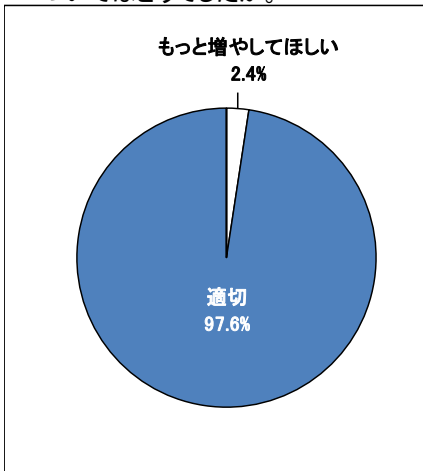
# 1 参加要員アンケート結果（原子力防災訓練）

【要員アンケート結果】アンケート回答者125人（愛媛県25人、伊方町22人、八幡浜市3人、大洲市8人、西予市3人、宇和島市6人、伊予市3人、内子町3人、大分県7人、四国電力32人、その他13人）

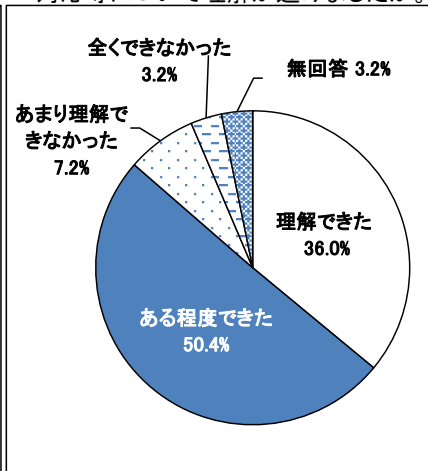
Q1 今回の訓練の想定や目的等を理解し、訓練参加できましたか。 Q2 自らの役割を果たすことができましたか。 Q3 訓練参加機関との連携はできましたか。



Q4 今回の訓練における役割、分担についてはどうでしたか。



Q5 原子力災害時における住民避難の対応等について理解が進みましたか。



## 【参加要員からの主な意見】

### 《災害対策本部訓練について》

- ・ 訓練規模縮小の中、関係機関との連携や情報収集、要支援者の避難ルート確認、住民広報訓練など、必要最低限の訓練ができた。今後も訓練と検証を繰り返し行い、実効性を高めたい。
- ・ 市は、地震発生時に災害対策本部を設置する。そうした中で警戒事態事象、施設敷地緊急事態へと進展していくが、状況の時系列が早すぎるのではないか。
- ・ 東日本大震災における福島第一原子力発電所事故の事象の時系列を参考に、より実災害に即した時系列による訓練が必要ではないか。
- ・ テレビ会議システムを利用した関係市町との情報共有方法を確認できたことは良かった。

### 《その他》

- ・ 原子力防災訓練の実施を把握していない社会福祉施設が複数あった。
- ・ 社会福祉施設のサービスが現状に合っていないものがあったため、名簿を更新する必要がある。
- ・ 今回の訓練のように、コロナ禍で規模を縮小して行う場合、1人で2箇所を受け持つのではなく、現実に即して施設毎に人員を配置して訓練を行った方がより良い訓練になるのではないか。
- ・ コロナ禍での訓練であったが、不特定多数の方との接点もなく、3密を回避し、時間短縮した訓練で、現在の情勢の中での訓練としてとてもよかった。
- ・ 本年は、愛媛県からの避難住民の受入れに関し、実動訓練ではなく図上訓練を実施したが、受入れ避難所の選定や輸送計画の策定等で、様々な問題点や改善点を抽出することができ、実効性のある訓練が実施できた。